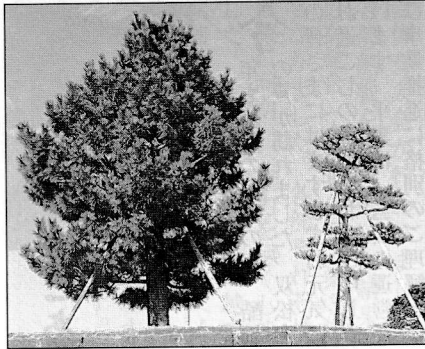




双松会会報

第42号「双松会」通巻46号「松高北高同窓会報」通巻46号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティー

Vol.19

高校30期・理数科9期
千葉 潮

石橋幸雄先生のこと

一昨年、40年ぶりに大阪から帰郷して、今は安来市加納美術館の館長を務めています。「平和を願いつけた画家の美術館」として山陰中央新報をはじめとして地元のマスコミによく取り上げられているせいか、高校時代の友人達もよく訪ねてきてくれています。

「平和を願いつけた画家」というのは、私の祖父である加納莞菴のことです。終戦後はフィリピンBC級戦犯の助命嘆願運動を個人として取り組み、当時のフィリピン大統領をはじめ世界の要人に直接書簡を出し続けました。これらのエピソードは様々なメディアでも紹介され、おかげさまで知る方も増えてきました。

館長着任早々、大規模改修工事のため約9カ月の長期休館。再開後最初の企画展は、「安来ゆかりの美術家たち」展。河井寛次郎（旧制松江中学の卒業生です）から、我々の大先輩です。のようなメジャーな人ばかりではありません。地元を中心に活躍していた作家の来歴を調べるのには苦労しましたが、『創立60周年記念 島根洋画会画集』という本がその大きな手助けになりました。

画集の後書きの中に、島根洋画会事務局を長いこと勤めていた石橋幸雄氏への謝辞がありました。その名前には覚えがありません。高校1年生の時の選択美術を教えてくださったという石橋先生です。冊子をめくると確かに石橋先生が写るスナップ写真が掲載してありました。

理数科に在籍していて、厳しい受験勉強が当たり前だった当時の私にとって、芸術科の1時間は少し息抜きができ、今から考えると自分と向き合うことができる大切な時間だったように思います。特に美術を選択した生徒はクラスで3人だけでしたので、とても静かな時間を過ごしたのです。

石橋先生の授業はよく覚えてあります。1学期は絵画。水彩でも油彩でもいいということだったので、私は油彩を選びました。祖父のアトリエに油彩の道具があり、興味があったのでしよう。川津校舎の弓道場のそばにイーゼルを立てて人生初の油彩で風景画を描いていました。川津校舎はとても古びていました。風情もありました。（私たちが一つ下の学年の人たちだけが、二つの校舎で学んだのです。2年生の春休

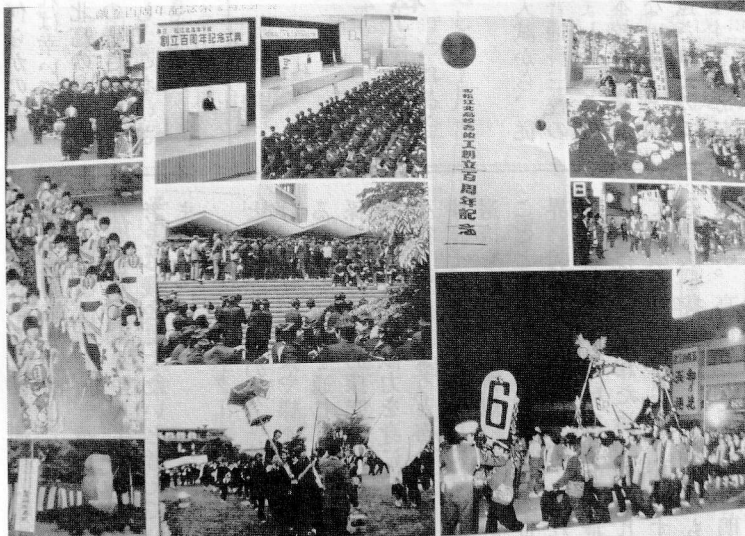
み、引越越し作業も面白かったことを覚えています。）

2学期はLPレコードのジャケットデザイン。3学期は県立博物館で開かれていた安井賞展のレポート。どんな作品や文章を書いたかは覚えていなかったので、石橋先生とどんな言葉を交わしたのか、また成績はどうだったのか、それは記憶にありません。しかし私の40年近い職業生活に直接関係することばかりでした。美術館に勤めるまで出版の仕事メインにしていた私は、記事や原稿を書き、本や紙面のデザインをし、そして今は美術館で油彩画と付き合う日々を過ごしています。石橋先生は、まさに恩師なのです。

石橋先生が長く事務局を務められた島根洋画会は、昭和20年12月に松江市内のレストランで洋画家13人が展覧会を開いたことから始まりました。戦後間もない時期から熱心に芸術に取り組み画家が島根には存在していたのです。その13人の創設メンバーの中に、祖父の加納莞菴（当時は辰夫）もいました。この

ことは知ってはいいたものの、まさか石橋先生と繋がるとは。石橋先生も私が加納の孫とは知っておられなかったでしょう。

ところで、石橋先生ご自身はどのような絵を描いておられたのでしょうか。先日不思議なことに行った時のことです。会議室へ向かう途中、ふと見かけた絵に近づくと、プレートには「作者 石橋幸雄」という文字が刻んでありました。薔薇色を基調にした優しい印象の作品です。「石橋先生が呼んでくださったのだ……」そう思うことになりました。





ごあいさつ

会長 金津 任紀

高16期(昭和40年卒)

今年も灼熱の太陽の下、酷暑の夏が訪れました。双松会の皆さまにはますますお元氣にお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は、当会の運営及び事業推進に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。先般の幹事総会で三たび会長に選任され、三期目として引き続き三年間双松会の運営にあたることになりました。その重責にあためて身の引き締まる思いでございます。母校と双松会の発展のため、微力ながら誠心誠意務めさせていただきますので、どうかご指導ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、本会報が発行される頃には五十七年ぶりの自国開催となる東京オリンピック・パラリンピックが開幕し日本中が熱狂と感動の渦に包まれていることと思ひます。国の名譽と威信をかけて行われる本大会が、コロナ禍による国内の沈滞ムードを吹き飛ばしてくれることを期待せずにはられません。

一年半以上も続く新型コロナウィルス禍は、私たちの生活を一変させました。会員の皆さまにおかれましては、今まで当たり前に行っていた社会経済活動が制約され、新たな日常への適応に息苦しさを感じておられる方も多いことと思ひます。ワク

チン接種が進みつつあり終息に向一筋の光明が見え始めましたが、会員の皆さまには感染対策を怠ることなく、自分自身の健康に一層留意されることをお願いいたします。

そのような厳しい状況の中、母校松江北高では生徒諸君が困難に負けず元氣に勉学に励むとともに感染予防のため創意工夫を凝らし部活動に邁進する姿は我々に勇氣を与えてくれます。そして、文武両面にわたる活躍で、素晴らしい結果を残していることは、卒業生にとっても大きな誇りと喜びです。今年から通学区制の廃止により北高独自の教育や校風が問われています。時流に即した在り方を模索しつつ「質実剛健」、「文武両道」に象徴される不易流行の理念を実践することで社会に貢献できる人材を輩出し、松江北高の松江北高たるゆえんを見せていただくよう心からエールを送ります。

母校は、明治九年の学校創立以来、今年で二四五周年を迎えます。これもひとえに歴代校長をはじめ教職員の皆さま、そして生徒諸君のたゆまざる研鑽努力の賜です。節目にあたり、記念総会という形で式典に合わせアトラクションや祝賀行事等を予定しておりますが、新型コロナ

ナウィルスの感染拡大防止の観点から大幅に規模を縮小し式典・記念講演会のみ実施することといたしました。おつて、ご案内させていただきますが、オンライン参加も可能ですので、できるだけ



学校長あいさつ

校長 常松 徹

けたくさんの方に何らかの方法でご参加いただければ幸いです。おわりに、母校北高の愈々の発展と双松会会員の皆さまのご健勝ご活躍を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

一年延期された東京オリンピック・パラリンピックの開会が三週間足らずと迫ってきましたが、新型コロナウィルスの感染拡大の不安がまだまだ心配な状況の今日この頃です。双松会の会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は、松江北高校の校長三年目を迎えました。常松徹と申します。六月末に無事(?)還暦を迎え、今年がいよいよ教員生活のラストイヤーとなりました。「不易と流行」をしつかりと見極め、チャレンジ精神を忘れずに学校経営に臨みたいと思ひます。

昨年度は、新学期早々緊急事態宣言の拡大に伴い臨時休業となりましたが、今年度は始業式以来、若干の制約はありますが、通常の教育活動を行うことができています。始業式翌日の入学式では、二百三十四名の新生を迎え入れました。地元紙の報道でご承知のように、三月の入学選抜において普通科で四十六人の定員割れをした結果

です。今春の高校入試から、従来の松江市内普通科三校の通学区が撤廃されました。その結果、中学校では本校の入試が難しくなるのではないかと、この懸念から出願を敬遠されたのでは、と言われています。確かにそういう要素もあるでしょうが、それだけではなく、中学生やその保護者に対して、本校の魅力ある取組や成果を今まで十分に伝えてきたのか、という反省もしました。そこで、六月の中旬には、本校主催で中学生の保護者を対象とした学校説明会を県民会館で開催し、本校の今までの取組やその成果、さらには今後の展望等について丁寧な説明をしました。当日は、約二百三十名余りの保護者の参加があり、事後のアンケートでも良い評価をいただいたところであります。また、従来の理数科二年生の関東研修旅行に加え、理数科一年生の隠岐島前研修、普通科二年生の希望者による津和野研修にも取り組んでいます。

さらに来年度には普通科二年生の近畿研修も計画しており、さまざまな体験活動を通じて、自分の将来の職業や人生について考える機会にしたいと考えています。

本校では、スクールポリシーとして「世界の人のたれ」を掲げ、日々の授業や様々な特色ある行事や活動を通じて、人間関係構築力・知的探究力・自己開拓力・社会貢献力を身につけた生徒を育成しようと努めています。そこで、来年一月には推薦選抜を普通科に新規に導入することとしました。名付けて「世界の人のたれ入試」です。これは、「将来、国内外において世界を視野に入れた活動を通じて、広く社会に貢献しようとする意欲を持つ生徒」を求めるものです。高校生活において、明確な将来像を持ち直向きに努力する生徒の存在が、本人の成長はもとより、周囲の生徒に良い影響をもたらしてくれることも期待しています。

こうした新しい取組を推進すると同時に、今まで大切にしてきた「質実剛健・文武両道」の精神も大切に、島根県のリーディング・スクールとしての立場と責任を自覚し、教職員と生徒が力を合わせ、本校の一層の魅力化・特色化に取り組みたいと思ひます。会員の皆様には今まで以上にご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念しましてご挨拶いたします。

事務局だより

一、創立百四十五周年記念事業について

○記念総会開催のご案内

期日：令和3年11月13日（土）
会場：サンラポールむらこも
次第①式典 14時
②講演会 14時35分

講師 島根県立大学理事長兼学長
清原正義氏（16期）
演題「島根県と大学改革」

本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小して開催します。来場できる方は各期の代表幹事の方のみとし、すでにご案内を終わっております。来場いただける方にはオンライン配信します。当日のオンライン参加申し込み（参加料無料）は「双松会ホームページ」（左記QRコード）よりお願いします。申し込み締め切りは11月12日（金）とします。是非参加いただき、式典、講演などお楽しみください。

○双松会ホームページの開設

かねてより準備を進めてきた双松会ホームページをこのたび開設いたしました。制作・管理・運営を業者（株）エブリプランに委託しております。双松会の概要、過去の会報、会員によるセミナーやメッセージなどを掲載しております。左記QRコードを読み取るか、記載のURL（<https://www.soshokai.or.jp>）から、是非アクセスください。また開設の周知等にもご協力いただきますようお願い申し上げます。

○同窓生名簿

「双松」発刊のお知らせ
時期：令和3年7月下旬



価格：五千円（送料・税込）
五年ぶりに同窓生名簿（令和三年版）を発刊しました。作成から販売までを業者（株）サルトに委託しております。購入等ご協力をお願い申し上げます。

○起雲館資料室の整備

松江北高校敷地内の起雲館（卒業生会館）3階にあります資料室を専門の方に整備していただきます。なお、残したい資料や写真等をお持ちでしたら、事務局までお知らせください。

○「世界の人たれ北高生！基金」のお願い

世界を視野に入れて、将来国内外で活躍する人材を育成するため、引き続き北高の教育活動を支援していくことになりました。同封の案内をご覧ください。ご協力をお願い申し上げます。

二、寄付金のお礼（敬称略）

昨年の8月以降、次の方より寄付金を頂戴いたしました。ご披露に併せて厚くお礼申し上げます。

令和3年卒業生
（普通科72期、理数科51期）より
267円
理数科研修旅行会計より 35円
上田豊様

三、慶弔のご報告

○令和3年春の叙勲・褒賞受賞者
旭日中継章

【産業振興功労金融業功労】
古瀬誠（16期）

松江商工会議所元会頭
山陰合同銀行名誉顧問
黄綾褒章

【業務精励（港湾建設業）】
金津任紀（16期）

カナツ技研工業社長
日本海上起重技術協会理事
なお、今回の受賞御祝の記念品贈呈を創立百四十五周年記念総会の式典にて行います。

○訃報

元双松会会長の金築修様（松

中61期）が令和3年3月に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

四、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会

令和3年10月16日（土）11時
於 品川プリンスホテル

○近畿双松会の総会

令和3年11月27日（土）
または28日（日）
【詳細は9月下旬決定】

○広島双松会の総会

令和3年11月中旬頃予定

○通信制双松会の総会

令和3年11月中旬頃予定

○米子双松会の総会

令和4年2月中旬頃予定

○安来双松会

このたび島田会長様が退任され、大槻様が新会長に就任されました。詳しくは地区だよりのページをご覧ください。なお、各地区の総会等については、今後の新型コロナウイルスの感染状況によって、変更の可能性もあることをご承知おきください。

令和3年度双松会幹事総会報告

【報告】

一、145周年関連事業について

二、名簿について

三、会報について

令和3年度双松会役員

顧問 松本 幹彦（中69・高1）

会長 庄司 肇（高11）

副会長 金津 任紀（高16）

古瀬 誠（高16）

勝部 昌幸（高21）

菅野 恵子（高22）

河原 一朗（高23）

泉 雄二郎（高26）

小山 理久（高28）

常松 徹（松江北高校校長）

幹事長 金平 憲（高16）

副幹事長 庄司 尚史（高23）

景山 直観（高31）

栗原 康郎（高13）

杉原 伸治（高30）

伊藤 尚子（高40）（松江北高校教頭）

- 【議題】
- 一、令和2年度会務報告
 - 二、令和2年度決算報告および監査報告
 - 三、繰越金について
 - 四、令和3年度会務計画（案）について
 - 五、令和3年度予算（案）について
 - 六、役員人事について（案）
 - 七、令和3年度双松会幹事について（案）
 - 八、HPの運用について（案）
 - 九、その他

令和2年度 双松会会計決算書

収入総額		3,999,728	
支出総額		2,065,067	
差引残高		1,934,661	…次年度へ繰越
【収入】A B A-B			
費目	予算額	決算額	増減(△)
入会金	1,989,600	1,989,277	△ 323
繰越金	1,998,669	1,998,669	0
繰入金	1,000,000	0	△ 1,000,000
名簿売上金	0	4,577	4,577
寄付金	0	10,186	10,186
雑収入	1,731	19	△ 1,712
合計	4,990,000	3,999,728	△ 990,272

監査報告

令和2年度双松会会計について、帳簿・証書類等を監査した結果、適切に処理されていることを認めます。

令和3年5月11日 監事 栗原康郎
令和3年5月11日 監事 杉原伸治

令和3年度 双松会会計予算書（案）

収入総額		5,807,000	
支出総額		4,990,000	
差引残高		817,000	
【収入】A B A-B			
費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)
入会金	1,872,000	1,989,600	△ 117,600
繰越金	1,934,661	1,998,669	△ 64,008
繰入金	2,000,000	1,000,000	1,000,000
寄付金	0	0	0
雑収入	339	1,731	△ 1,392
合計	5,807,000	4,990,000	817,000

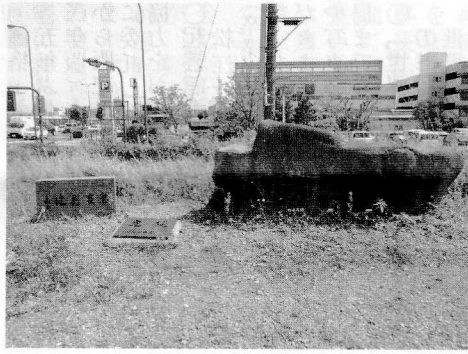
支出総額		4,990,000	
収入総額		5,807,000	
差引残高		817,000	
【支出】A B A-B			
費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)
会報発行費	3,000,000	1,500,000	1,500,000
記念品費	320,000	300,000	20,000
旅費	550,000	550,000	0
会議費	150,000	150,000	0
人件費	200,000	100,000	100,000
雑費	100,000	100,000	0
通運事務費	100,000	100,000	0
雑費	50,000	50,000	0
予備費	1,337,000	2,140,000	△ 803,000
合計	5,807,000	4,990,000	817,000

特集

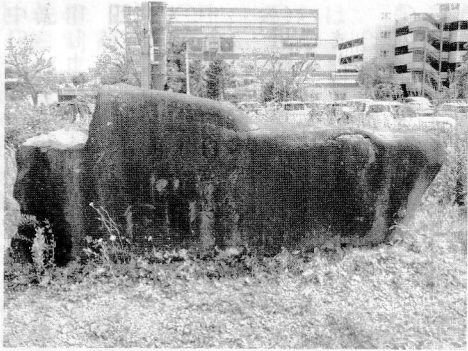
西川津校舎跡地の記念碑

現在、松江北高校の校舎は松江市奥谷町、通称赤山にあります。生徒の学び舎として日々賑やかな場所となっており、この赤山と北高は古くから縁が深く、地域の方々や卒業生の方に親しまれています。しかし、そんな松江北高校の歴史の中でも、別の土地に校舎が建っていた時代がありました。そして旧校舎跡地には、そこに確かに松江北高校があったのだという証として現在も記念碑が残っています。

昭和二十五年から昭和五十三三年まで、松江北高校の校舎は西川津（現・松江市総合体育館近辺）にありました。西川津校舎は約一万四千人もの生徒を送り出し、その歴史に幕を閉じました。そして北高の赤山移転が決まった際に、

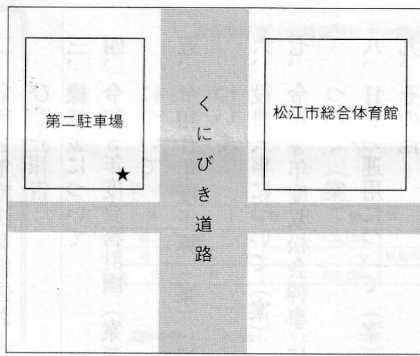


その西川津校舎の卒業生の方々が、校舎跡地の一部保存運動へと踏み切りました。その結果、昭和五十三年に西川津校舎跡地には記念碑が建てられることとなったのです。記念碑は現在、松江市総合体育館の第二駐車場の一角にひっそりと佇んでいます。（地図上の★の位置）その前面には『若かりし日の わが夢ぞそこに 狭霧ふ 松江北高校跡地之碑』とあり、背面には『昭和二十四年、南北両校舎に分かれて発足した松江高校は、翌二十五年秋、ここ南校舎の地を校地と定めた。松江高女の故地である。三十六年、松江南高校設立とともに、名を



北高校と改め、五十三年秋、北部土地画整理事業のため、松江中学の故地赤山に居を移したが、その間、ここに学びこの地より巣立てる一万四千有余名、まことに若きいのち燃え、夢ふくらむ、青春蕩揺の舞台であった。いま、学舎の姿なく、校地また昔日の面影をとどめずといえども、此処に託された若者達の三春は、永くこの地にとどまって去ることはない。ここに碑一基を建立し、これが記念とする。昭和五十三年五月 島根県立松江北高等学校 文 兼折博』とあります。記念碑からは西川津校舎の歴史と「その地で青春を過ごした一万四千人の生徒が確かにいたのだ」ということが伝わります。現在は西川津校舎の面影もなく、周囲の様子も近年の新

松江市総合体育館の建設などに始まり、日々めまぐるしく変化しています。そのような変わりゆく時代の中にあつて、この記念碑だけが変わらぬ姿で西川津の地に厳然と鎮座しています。校舎や生徒は残らずとも、この地は依然として西川津校舎卒業の先輩方の青春時代の熱を湛えています。是非一度足をお運びになつてはいかがでしょうか。



双松会のホームページを開設しました。
<https://www.soshokai.com>



幹事

常任幹事

津中	伊福	橋加	名桜	梶井	古矢	福名	奥石	高井	柏木	長谷	渡廻	池田	江指	岡美	金津	長内	矢野	田尻	森脇	細田	安部	大加	森幸	長野	井原	石倉	安部	野津	裏安	武松	岩田	金馬	貴庭	林原	永崎	玄行	西松	吉山	山口																		
森村	達島	本島	越井	上藤	藤野	越田	飛原	橋雄	一英	川俊	美和	美宏	知淳	美弘	津次	昭博	賢爾	重弘	昭守	早陽	邦江	和義	忠夫	彰江	正武	良幸	崇樹	立真	真彦	寿伸	敏行	幹治	悦隆	俊登	龍也	植隆																					
均	光倫	邦幸	辛夫	昇己	誠人	博文	義典	正男	啓三	裕一	英作	宏美	俊和	美宏	淳郎	昭博	進仁	瑞賢	義弘	重守	昭哲	陽子	邦江	和義	忠夫	彰江	正武	良幸	崇樹	立真	真彦	寿伸	敏行	幹治	悦隆	俊登	龍也	植隆																			
高26	高25	高23	高22	高21	高20	高20	高20	高19	高18	高18	高18	高18	高17	高17	高16	高15	高14	高13	高13	高13	高12	高11	高11	高11	高10	高10	高7	高7	高7	高7	高6	高5	高5	高5	高4	高3	高2	高1	高66	高62	高47	高46	高43	高42	高38	高36	高34	高34	高31	高29	高29	高26	高23	高22	高21	高19	高16

新

新

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長
糸川 孝一(高31期)

令和2年はコロナ禍のため東京双松会総会を開催できませんでした。しかし事務局として総会が開催できない代わりに何か会員の皆様に喜んで頂けることができないかと考え、「特別編集号」として例年より内容を充実させた会報を作成しました。東京双松会のHPにWEB版を掲載しますのでご覧いただければ幸いです。

さて、このような状況下ですが、令和3年の東京双松会総会は、公益財団法人日本バスケットボール協会(JBA)審判グループゼネラルマネージャー、審判/TO/インテグリティ委員長の宇田川貴生さん(S55年卒)による「講演」(仮)、大岩篤郎さん(S42年卒)・妻屋秀和さん(S58年卒)・岩井翔平さん(H22年卒)・ピアノ伴奏山田博子さん(S55年卒)による「3世代オペラ歌手!夢の競演!」、俳優で嘶家の富岡寛さん(S46年卒)・芸名・秋山格之進・麹家寛太)による「落語」を予定しています。

日本を代表するオペラ歌手である妻屋さんをはじめこのような多才な顔ぶれを拜見す

ると、双松会には、各世代にわたり傑出した人材が多くおられると改めて感じます。

現時点では本年度の東京双松会総会が開催できるかどうかは不明ですが、ワクチンの接種が進むなどで開催できる状況になることを願っています。

末筆ではありますが、会員の皆様におかれましては健康に気を付けていただき、くれぐれもご自愛いただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先...

東京双松会事務局
〒102-0084
千代田区一番町1-3
「中央印刷事務器(株)内」
TEL 03-3265-4858
<https://tkosho.qwc.jp/index.html>

東京双松会ホームページ



妻屋さん公式ページ



近畿双松会

近畿双松会 会長
松本 耕司(高16期)

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、昨年度はすべての行事を中止にしましたが、会員の近況を主とした「年次会報」を発行できたことがとても救いでした。

本年度は、秋には天下の情勢も見えてくると思います。

総会・懇親会は11月末を仮予定していますが、今後の活動は、9月中旬には安全・安心を第一に判断してまいります。

その間の情報は、ホームページ、メールマガジン、LINE@で発信いたしますのでご注目をお願いします。

メールマガジン、LINE@が未登録の方はぜひ受信手続きをお願いします。(一方だけ可)

お問い合わせ先...

①専用アドレス:
master@kinki-soushoukai.org

②電話: 090-6609-8817
(携帯)

近畿双松会ホームページ:
<http://www.kinki-soushoukai.org/>

QRからもアクセスください。

「メールマガジン」登録:

①QR、ホームページ、専用アドレスからメールアドレスを登録ください。

(※)専用アドレス:

kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

「LINE@」登録:

左記QRからお名前、卒業期を登録ください。

近畿双松会ホームページ



「メールマガジン」登録



近畿双松会



米子双松会

米子双松会 事務局長
中西 秀夫(高15期)

2月21日に予定をしていた令和3年総会は、新型コロナウイルスの収束が見通せず、会員の健康安全を第一に考えて総会の開催は中止とし、会員へ総会資料を郵送し承認を得ることとしました。今年役員改選(2年任期)の年でしたが、基本的に前年役員の再任で承認されました。7月開催の納涼会も中止。旅行部会のいちご狩り、野鳥観察会も中止。役員会も中止することとなりました。このコロナ禍の中で唯一活動しているのが、ゴルフ部会です。毎月大山平原GC、大山アークCC、グリーンパーク大山GCをローテーションで開催し、毎回4~5組の参加があり、全員に豪華(?)景品が当たります。

さて、本会は米子周辺に住する卒業生(松江中学、松江高校、松江北高校)及び、これに準ずる者を会員として、昭和48年1月28日、石原国(鳥取大学医学部附属病院長)を初代会長に発足し今年で48年目を迎えますが、会員もだんだん高齢化し、各種行事への参加も減少傾向です。同窓として、お互いに理屈抜きで心を通わせられる米子双松会にしたいと思っていますので、多くの方の入会をお待ち

副会長
副会長

海坂野	立森谷	山根中	井上原	石原下	森澤下	高木下	井原下	船越下	小森下	山根下	錦山下	青山下	春山下	増田下	野田下	小松下	佐々下	梶谷下	松田下	門田下	安達下	田中下	宮中下	山口下	飯塚下	中村下	金村下	西村下	渡部下	原部下	田村下	内藤下	錦下	鈴下	葛下	松本下	森下	岡下	室下	羽田下	安部下						
透本津	育總	裕	太佳	万彩	友友	幸之	耕平	倫美	萌奈	春奈	康世	綾子	琢也	洋典	依未	良馨	笑美	直平	陽平	誠治	敦子	野智	佐久	木慎	英伸	輝昌	朋秀	優弘	政博	周平	和子	信也	康弘	中	啓	文	俊	永	正	浩	孝	修	光	光	隆	隆	裕
(通信制)	(通信制)	(通信制)	(高62)	(高62)	(高61)	(高61)	(高61)	(高60)	(高59)	(高59)	(高58)	(高58)	(高55)	(高53)	(高53)	(高53)	(高52)	(高51)	(高51)	(高50)	(高49)	(高49)	(高49)	(高49)	(高48)	(高48)	(高48)	(高47)	(高44)	(高44)	(高42)	(高40)	(高39)	(高38)	(高36)	(高35)	(高35)	(高35)	(高34)	(高33)	(高32)	(高31)	(高30)	(高29)	(高28)	(高27)	(高27)

しております。また、コロナ収束を切に願ひ、皆様の健康安全を祈っております。

連絡先

米子双松会事務局
〒689-3402
米子市淀江町淀江771
TEL&FAX
0859-5612315

広島双松会

広島双松会 副幹事長
渡部 賢 (高36期)

昨年来のコロナ禍により、大きな影響を受けている各地の双松会会員の皆様ならびにご家族様に、広島双松会から謹んでお見舞いを申し上げます。

広島県下におきましても、その猛威は社会・経済活動に大きな影を落としており、当会では会員の健康を第一と考え、令和2年度は一切の行事を中止いたしました。

今春には、一旦鎮静化の様子も見られたことから、事務局では令和3年度の活動方針案を作成、幹事会にて審議・実行に移すべく諸準備を進めておりましたが、その矢先の4月には再度の緊急事態宣言が県下にも発せられました。そのため、誠に残念ながら本稿の出稿時点においては今年度の活動は、全くの白紙の状態となっております。今後、詳細が決まり次第、会員の皆様ならびに関係各位へ改めてご連絡いたします。

一刻も早くワクチン接種等の諸施策が功を奏し、以前のようにより自由に諸活動が行えるようになり「友情かはらず、こぞれる」その日が来るまで、広島赤山健児は、強くたくましく過してまいります。

末筆ではございますが、各地の会員の皆様のご健勝とご自愛を心からお祈り申し上げます。

安来双松会

安来双松会 会長
大槻 嘉光 (高15期)

本年4月1日付け会則改正で、名称を東部双松会から安来双松会になり、役員体制も整いました。長い間東部双松会の会長としてご尽力された島田一嗣氏から会長職を辞したい旨の申し出があり、数回の役員会で私が会長を務めることになりました。

数年前に松江駅から帰宅する列車で偶然双松会の大先輩と席を同じくしました。大先輩は東部双松会についての熱い思いを列車を降りるまで語られました。早速市役所に勤めておられた後輩にその思いを伝えました。当時の足立幹事長始め卒業生有志(私も参加)で協議し、卒業生談笑の集いの開催(平成29年12月)に到りました。大先輩にはとても喜んで戴きました。

これまで私は東部双松会総会に全て出席しておりませんが、総会会場まで送迎のバスが巡回したことを覚えております。総会での年代を超えての交流や総会終了後先輩の自宅に押しかけての懇談も楽しい思い出です。

依然として終息しないコロナウイルス感染症のため総会開催の目処が立ちませんが、早く安来双松会総会を開催し、卒業生の皆様の元気な姿や活躍されている姿を拝見したい、交流したいと念願しています。

通信制双松会

通信制双松会 会長
野津 裕

昨年の総会は新型コロナウイルスの感染拡大により残念ながら延期中止と致しました。

令和3年になって今年こそは終息に向かう希望の下に今日まで様子を見ていましたが、とても秋までに終息しそうではなく総会を開会することには非常に危惧される状況が続いており、やむを得ず今年も安全第一を考えて延期中止することと致します。来年完全な終息を迎えた暁には、総会のご案内ができる事を切に祈っています。尚その際は延期した出雲地区にお願いすることになりますのでご承知おき下さい。

会員の皆様におかれましてはくれぐれも感染防止の対策を行い、万全にお過ごし下さるよう祈ります。

尚、周知のように今年11月13日に松江北高等学校創立145周年の記念総会が予定されています。

前回(140周年)の際は通信制双松会から19名が参加し各期会員の皆様と共に会を祝し、交流を深め親睦を図りました。

した。今年度は通信制総会を中止した事情も含め、通信制双松会員も是非参加して頂くよう呼びかけをする予定でしたが、残念ながら規模縮小(通信制は会長を含む3名のみ)の記念総会となってそれも適わなくなりしました。本年は何事も我慢の年となりそうです。

令和2年度 通信制双松会会計報告

通信制双松会			
収入総額	579,139 円		
支出総額	0 円		
残 額	579,139 円		
収入の部 (単位: 円)			
項 目	金 額	備 考	
繰 越 金	579,135		
雑 収 入	4	預金利息	
合 計	579,139		
支出の部			
支出なし			

「世界の人たれ
北高生!基金」
の活動報告

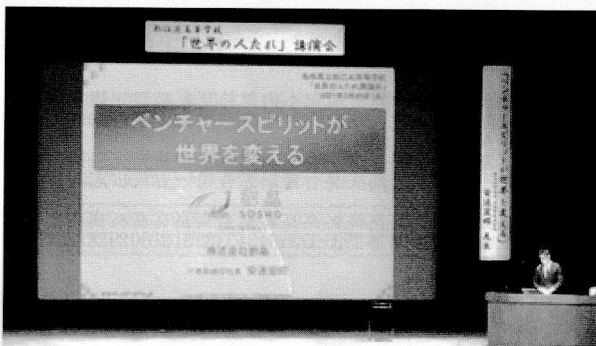
創立140周年記念事業の一つとして立ち上げられた「世界の人たれ北高生!基金」につきまして、次のような形で本校の教育活動の実施費用として、また本校生徒の研修費用の補助として拠出させていただきます。

○世界の人たれ講演会

令和3年3月23日(火)

本校卒業生である株式会社創品(そうしゅう)代表取締役社長、安達宏昭氏を講師として招き、「ベンチャースピリットが世界を変える」という演題で講演していただきました。

講演内容を4つ準備していただき、生徒の希望で「オリジナルジャン体制による産業創造」がたっぷり儲けるために「についてお話ししていただきました。自身のこれまでのキャリアをお話しいただきながら、行動したら失敗でも成功でも成果がある、大きな目標に向かって道を切り開け、



本年度の進路状況

進路指導部長 福田 一志

(理数科12期)

2021年度大学共通テストがスタートした。受験者数は、前年から2万2454人減の53万5千245人で3年連続の減少となった。一方で国公立大学一般選抜志願者総数は前年から1万4197人減の42万5千368人でした。志願倍率は、微減の4.30倍であった。初年度であった共通テストの平均点は、ベネッセコーポレーション推定で、文系55.2点、理系57.2点(いずれも前年度対比では、文系が4点アップ、理系は13点アップといずれもアップ、特に理系では大幅なアップとなりました。理系で大幅アップとなった要因は、数学②、生物といった科目の平均点大幅アップです。学部系統別の志願者数を見ると、国公立大前期日程で総合科学が指数113で増加、薬学部が指数107でやや増加が目立ちますが、他学部は軒並み志願者数減、特にスポーツ・健康系は指数83と大幅な減少でした。本校生徒の入試結果を振り返ると、国公立大学合格者数は、現浪合わせて延べ172で、昨年からは増加しました。前期合格者数が昨年の147から変わらず147、中後期合格者数が昨年の18から25と、最後まで粘って合格を勝ち取った生徒が目立ちました。いわゆる難関10

大学(旧帝国大7大学+一橋・東京工業・神戸)の合格者数は24で昨年の17から増加。特に京都大学現役5人合格は近年になく生徒がよく頑張ってくれました。国公立大医学科は8です。共通テストに変わることを受け、全国的に浪人を避ける傾向であった昨年度の入試の結果、浪人生の少ない現役生中心の戦いであった。平均点設定を50%にする等話題の多かった共通テストであるが、あけてみると、平均点自体は例年とさほど変わらないものであった。ただし、教科によれば新傾向の問題が出題されているものもあった。また、コロナの影響で追試験、特例追試験も行われており、これらに関しては例年のセンター試験とは異なり平均点が50%程度になっているものもある。今後どのような出題になっていくのか、問題の分析を詳細に行い対応していかなければならない。

次年度入学してくる現中学3年生から教育課程が変わり高校の教育も大きく変わることになる。また、学習評価に関して、ポートフォリオ評価を導入、調査書の形式も変わり、様々なことが変化しつつある。

この改革は、先行き不透明な社会を生き抜く力をつけるために、大学教育・高等学校教育とその2つをつなぐ大学入学者選抜を三位一体で改革する「高大接続改革」の一部で、大学教

育・高等学校教育の改革は既に進行している。また、大学入学者選抜においても、入試問題の質や、入試形態に改革の兆しは見え始めている。入試改革では、面接試験での自分の思いが重視され、プレゼンテーションを課す大学も徐々に増えている。今年度、島根大学では「へるん入試」という名前で新しい入試もスタートしている。

この改革の源流は、「社会がどのような人材を求めているか」にある。すなわち、高校生にとつては、「どのような人材になるか」という問題を「自分事」として考えていく必要がある。自分がどんな力をつけ、どんな形で社会に貢献し、どんな人々を幸せにするために生きるのか、そんな「生き方」を考え、次のステージを選択することが重要になる。それがいわゆる将来の「夢」につながる。その夢に対する思いが強ければ強いほど、目の前の高い壁に向かう意欲が強くなる。次のステージに向けて壁を乗り越えることこそが「受験」である。北高では、何度も何度も面談を繰り返し、何度も進路希望調査を行う中で、自分の「生き方」を考え、そのために必要な力をつけるための努力を継続する。その過程では大きな苦しみを伴うことも少なくない。現役生にとつては、何もかもが初めての経験で、手探りの模索が続く。しかし、その経験を乗り越えたとき、知らぬ間に「生き方」を考え、前に進むことができるようになる。

コロナウィルスの流行による長い休校からスタートし、県総

体・インターハイの中止、各種コンクール等の中止、分散登校という形で普段とは違うことばかりであった今春の卒業生であった。しかし、先にも挙げたように、京都大学現役5名合格をはじめとして、受験に関しては大きな成果を残してくれた。ウィズ・コロナということでも例年と異なる学校のあり方を模索しているところである。コロナと共生する時代が来るのである。その時代を生き抜いていく生徒達に対して我々はどういう教育をしていくべきなのか。北高が試される時代が来ている。

進路状況

令和3年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(令和3年4月集計)

卒業生	平成31年3月			令和2年3月			令和3年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	110	33	143	100	27	127	116	22	138
公立大学	39	6	45	31	7	38	28	6	34
国公立大学	220	59	279	306	85	391	258	74	332
短期大学	17		17	12	4	16	16	2	18
専門学校	19		19	22	1	23	13	1	14
就職		1	1			0			0
合計	405	99	504	471	124	595	431	105	538
クラス数	8クラス			7クラス			7クラス		

編集後記

盛夏を迎え、双松会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は変化を余儀なくされました。世の中ではICTを上手く活用することで安心して日常生活をおくっていくという試みが一般的となりました。本校でも学びを止めないという目的の下、ICTを授業や学校行事等で導入していこうという取り組みが随所で見られるようになりました。ピンチをチャンスに変えていこうという思いの中、生徒は新たな学びを確立していこうとしています。生徒や教員が当たり前のようにICTを活用していく未来はそう遠くないのかもしれない。

私は今年度から北高に赴任してきました。通信制ではありませんが、高校時代を過ごしてきた校舎で勤務ができることに喜びを感じています。校内の備品に書かれた「松江北高通信」という文字を見つけて懐かしさを感じながら、生徒たちが充実した日々を過ごせるよう私自身も努力を惜しまず、生徒と共に成長していこうと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を執筆して頂きました皆様、誠にありがとうございます。そして、すべての双松会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

(事務局)